



Webversion



IDF PRESS RELEASE

IDFプレスリリース

2020年2月25日、ブリュッセル発

ICAR/IDF ワークショップ：乳牛の福祉を促進する家畜ベースの指標

ICAR/IDF Workshop: Animal-based indicators to promote welfare in dairy cows

IDF と ICAR は、2020年6月9日に乳牛福祉の家畜ベースの指標の使用とその可能性のある整合化に関するワークショップを開催します。

家畜福祉は、酪農家、消費者および小売業者にとってますます重要になっているトピックです。酪農場での福祉の健全な評価には、家畜福祉のさまざまな側面を確実に反映した牛への対策が必要です。

本トピックをさらに探るために、IDF と ICAR はオランダのレーワルデンにおいて今度の [ICAR-内部会議](#) での [ワークショップを共催](#) する予定です。

[本ワークショップ](#) は家畜ベースの福祉指標の相乗効果と共同利用を推進し、そのようなパラメーターの整合化が信頼性と透明性をどのように高めるかを探ります。

近年の研究では、福祉の評価に使用できるいくつかの指標が提案されています。適切な福祉指標の実装は世界中に広がりつつあり、研究機関や大学、繁殖組織、および家畜福祉を使用して製品を差別化する小売業者が関与しています。

本ワークショップでは、家畜福祉評価の必要性に関する背景情報、農場での家畜福祉を評価するための福祉評価プロトコルの実装、情報の使用における潜在的な発信源と相乗効果、[IDF 酪農生産における適正な家畜福祉 IDF ガイド 2.0](#)に基づく構築について発表する予定です。指標の整合化がどのように達成されたかの事例も発表されます。

IDF 家畜の健康・福祉常設委員会委員長のオラフ・オステロース Olav Østerås 博士は次のように述べています：

「酪農乳業セクターは、科学的エビデンスと参照基準に基づいて家畜福祉を確保するためのベストプラクティスの実装に取り組んでいます。直接的な措置、生乳生産システムに対する動物の反応は、優先的に福祉を評価して監視するために使用されるべきです。ICAR と IDF は、このワークショップを開催し、酪農家畜福祉の分野での評価のノウハウを増やすことを独自に任ぜられています。このワークショップは、酪農乳業セクターのさまざまなステークホルダーにとって大きな関心事です。」

プレゼンテーションでは、さまざまな国の家畜ベースの指標に焦点を当てた家畜福祉記録の取り組みを扱う予定です。本ワークショップは、世界中の家畜福祉指標の整合化に向けて取るべきさらなる措置について、福祉の記録と福祉指標の利用に關与するさまざまなステークホルダーの代表が見解を表明するために招待されるワールドカフェで締めくくられます。

さらに、本ワークショップでは、畜産営農における抗菌剤の必要性を減らすために家畜の健康と福祉に関するベストプラクティスの事例を伝えることに焦点を当てた EU のイニシアチブである [DISARM](#) テーマネットワーク（抗生物質耐性管理の革新的ソリューションの普及）について紹介する予定です。

本ワークショップは IDF メンバーは参加無料ですが、数に限りがあります。

空き状況と登録条件の確認は、[マリア・サンチェス・マイナー](#)にご連絡下さい。

完

翻訳：J I D F 事務局

編者注：仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。